

(19)日本国特許庁(J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-81245

(43)公開日 平成 6 年(1994)11月22日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 0 1 K	1/01	F 8602-2B		
	1/015	B 8602-2B		
	23/00	C 9123-2B		

審査請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号 実願平5-31499

(22)出願日 平成 5 年(1993) 5 月 7 日

(71)出願人 591265563

株式会社ケイ・エス・ケイ

福岡県北九州市門司区松原 3 丁目 5 番 11 号

(72)考案者 久富 清光

福岡県京都郡苅田町新津1414番地 1 号

(72)考案者 古賀 政敏

福岡県北九州市八幡東区山王 3 丁目 7 番 3 号

(72)考案者 江藤 孝行

福岡県北九州市若松区小石本村町 4 番 16 号

(72)考案者 久保 信一

福岡県北九州市小倉北区金田 2 丁目 39 番 3 号

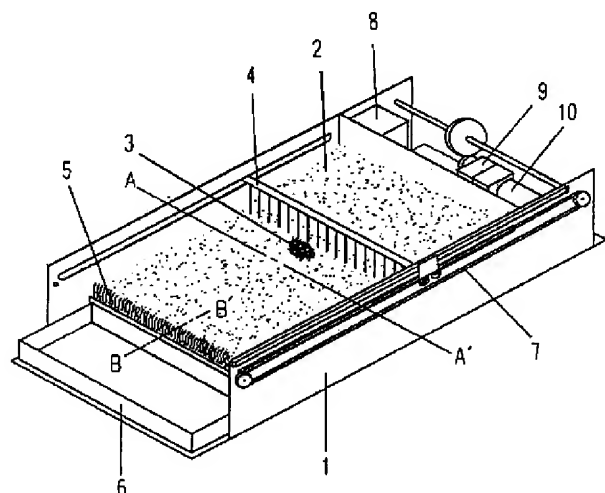
最終頁に続く

(54)【考案の名称】 ペット用糞尿自動処理機

(57)【要約】

【目的】 何時でも、自動的にペットの糞尿処理が出来る、安心して家を留守にする事が出来る、ペット用糞尿自動処理機を提供する。

【構成】 水分を含むと固まる砂(2)と、ペットが退去したことを確認するセンサー(16)と、自動的に糞尿(3)を搬送する除去クシ(4)と、砂(2)の量に応じて高さ調整の出来る砂返しし刷毛(5)と、消臭機能を有する糞尿溜(6)を装着することを特徴とする。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 糞尿(3)を、自動的に駆除する装置であって、水分を含むと固まる砂(2)と、送りベルト(7)によりスライドする除去クシ(4)を備え、糞尿(3)のみを排出し余分な砂(2)の排出を防ぐための砂返しし刷毛(5)、及び消臭機能付糞尿溜(6)を備えた、ペット用糞尿自動処理機。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の斜視図である。

【図2】 図1のA-A'線の断面図である。

【図3】 図1のB-B'線の断面図である。

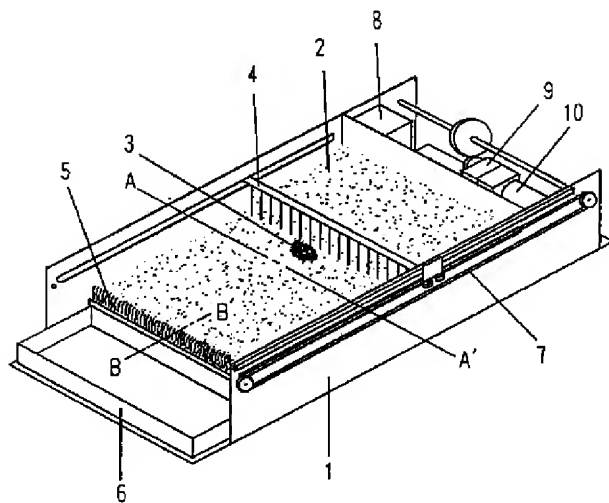
【図4】 本考案の他の実施例を示す斜視図である。

【符号の説明】

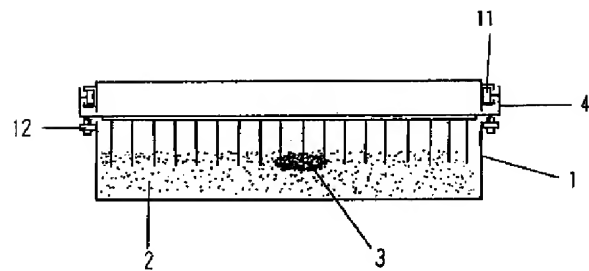
- 1 箱
- 2 砂

- 3 糞尿
- 4 除去クシ
- 5 砂返しし刷毛
- 6 糞尿溜
- 7 送りベルト
- 8 制御盤
- 9 減速機
- 10 モーター
- 11 ローラー
- 12 ローラー
- 13 カバー
- 14 カバー
- 15 カバー
- 16 センサー
- 17 消臭剤

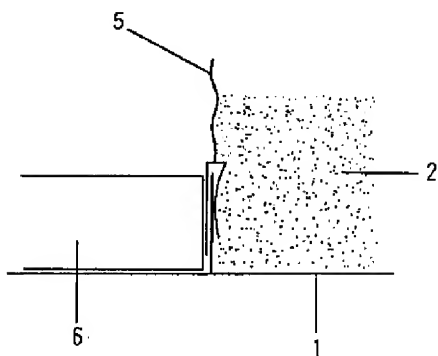
【図1】



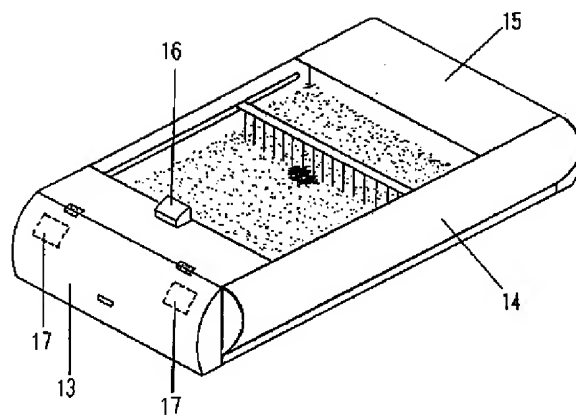
【図2】



【図3】



【図4】



フロントページの続き

(72)考案者 山本 忠義
福岡県北九州市小倉北区木町2丁目19番17
号

(72)考案者 村田 富美子
福岡県北九州市門司区上二十町2番20号

【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

この考案は、ペットの糞尿を自動的に処理する装置に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

従来、ペットの用便は散歩に連れていき用をたすか、便器のような物を置いてそこでさせていた。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

これは次のような欠点があった。

(イ) ペットのために家を留守にすることが出来なかった。

(ロ) また、便器のような物を置いていても、その後始末はその都度し、新しく次の準備をしなければ室内に臭いが残り不愉快な気分を与えていた。

(ハ) 従来、尿により固まる砂はあるが、これもスコップ又は箸の様なもので取り除かなければならなかった。

本考案は、現在ペットを飼う家庭が増加傾向にある一方で、このような問題点が多いという事から、これらの欠点を解決するためになされたものである。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

水分を含むと固まる砂(2)を入れる箱(1)と、制御盤(8)の指示によりスライドする除去クシ(4)を備え、除去クシ(4)により移動された糞尿(3)を受ける消臭機能付糞尿溜(6)を設け、さらに糞尿溜(6)と砂(2)の間に、糞尿(3)のみを排出し、余分な砂(2)の排出を防ぐための砂返し刷毛(5)を装着する。

本考案は、以上のような構成よりなるペット用糞尿自動処理機である。

【0005】**【作用】**

電気式駆動装置を備え、送りベルトにより除去クシ(4)をスライドさせる。

砂(2)の中の固まった糞尿(3)は、除去クシ(4)により移動させられ、柔らかく弾力性をもった砂返えし刷毛(5)の上を通り、糞尿溜(6)へ排出される。また、糞尿溜(6)の上までスライドした除去クシ(4)は、砂返えし刷毛(5)の中を通り抜け、砂(2)をならしながら元の位置までもどる。

【0006】

【実施例】

続いて、添付した図面を参照しつつ、本考案を具体化した実施例につき説明し、本考案の理解に供する。

ここに、図1は本考案の一実施例に係るペット用糞尿自動処理機の斜視図、図2は図1のA-A'線の断面図、図3は図1のB-B'線の断面図、図4は他の実施例を示す斜視図である。

(イ)カバー(13)の上部にセンサー(16)を設け、カバー(13)の内側に消臭剤を取付ける。

(ロ)カバー(15)の内側にモーター(10)及び減速機(9)を設け歯車を介して送りベルト(7)を回転させる。

(ハ)送りベルト(7)にローラー(11)(12)を装備した除去クシ(4)を連結する。

(ニ)箱(1)の中に、水分を含むと固まる砂(2)を入れ、端に高さ調整の出来る砂返えし刷毛(5)を設け、砂(2)側と糞尿溜(6)側を仕切る。

(ホ)箱(1)の端に取出しの出来る糞尿溜(6)を装備する。

本考案は、以上のような構造で、ペットが用便を済ませ立ち去るとセンサーにより駆動装置が働き、除去クシ(4)をスライドさせ、固まった糞尿(3)を自動的に糞尿溜(6)に排出する。

しかも、箱(1)の回りにカバー(13)(14)(15)を取付けており安全である。さらに糞尿溜(6)側のカバー(13)の内側に消臭剤(17)を取付けているため、消臭効果もある。

【0007】

【考案の効果】

自動的に糞尿の処理が出来るため、いつでも家を留守にすることができ、糞尿

の後始末も糞尿溜が一杯になった時に処理すればよく、手間がはぶける。また、消臭剤も取付けており不快な臭いもなく、衛生的にも効果があり、快適な生活環境が保てる。